

# 第5章 貨幣とインフレーション

市東 亘

shito@seinan-gu.ac.jp

平成 23 年 11 月 20 日

## 1 本章の目的

テキストでは、インフレーションを理解することを目的とし、議論は古典派のモデルのみならずより発展的なモデルにまで言及している。講義では、第5章の一部のみを扱う。講義では、今まで古典派のモデルで省略してきた貨幣市場を古典派の枠組みでモデル化し、なぜ古典派のモデルでは貨幣市場を省略することができるのかについて理解することを目標とする。テキストの該当箇所は pp.131-149 の 5-1, 5-2 節。

## 2 概観

- (1) 貨幣とは何か。  
古典派のモデルにおける貨幣の取り扱いを学ぶ前に、そもそも貨幣とは何かについて学ぶ。
- (2) 貨幣量はどうかコントロールされるか。  
貨幣は誰によって供給され、どのようにその量がコントロールされているかを学ぶ。
- (3) 貨幣量の測定。  
マクロ経済モデルを学ぶ前に、第2章で様々な経済統計について学んだ。ここでは、貨幣の統計指標である貨幣供給量について学ぶ。
- (4) 貨幣数量説。  
古典派の枠組みで貨幣市場をモデル化した貨幣数量説を学ぶ。このモデルを通して貨幣が経済に実質的な影響を与えないことを確認する（古典派の二分法）。
- (5) 長期分析のまとめ。  
ここまでで長期分析の理論的枠組みを学習し終えるので、これまでのまとめと、今後の発展学習の道筋を示す。

## 3 貨幣とは何か

- 一般には、貨幣 = \_\_\_\_\_

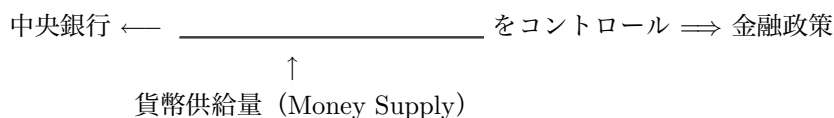
- 経済学では、貨幣 = \_\_\_\_\_  
インターネットで本を購入する場合、何で決済するだろうか？

### 貨幣の機能

- 価値貯蔵手段
- 計算単位 …… 流動性が必要.
- 交換手段 …… 「欲望の二重の一致」の必要がなくなる.

以上の機能を満たせば、現金である必要はない！

## 4 貨幣量はどうかコントロールされるか



### 金融政策の方法

- 公開市場操作 (open market operations)
- 必要準備率 (reserve requirements)
- 公定歩合 (discount rate)  
現在は基準割引率または基準貸付利率と呼ばれている。1994年の金利自由化により預貯金への影響がなくなり、現在は公開市場操作の操作目標である無担保コールレート（オーバーナイト物）の上限金利の役割を担っている。

日本銀行ホームページのトップ右下に、金融政策の目標金利や主要指標が載っている（毎営業日更新）。

## 5 貨幣量の測定

旧定義。テキスト p.140.

指標	含まれる資産
C	通貨
M1	現金通貨 + 預金通貨（要求払い預金）
M2	現金通貨 + 預金通貨 + 準通貨
M2 + CD	M2 + 譲渡性預金（CD）
M3	M2 + 郵便局や農漁協等の預貯金
M3 + CD	M3 + CD
L	広義流動性 = M3 + CD + 債券現先 + 金融債 + 国債 + 投資信託 + 金銭信託以外の金銭の信託 + 外債

**新定義.** (日本銀行 HP, マネーストック統計の FAQ 参照)

指標	含まれる資産 / 対象金融機関
M1	現金通貨 + 預金通貨 (要求払い預金) 全預金取扱機関
M2	M1 + 準通貨 + 譲渡性預金 (CD) 日本銀行, 国内銀行 (除くゆうちょ銀行), 外国銀行在日支店, 信金中央金庫, 信用金庫, 農林中央金庫, 商工組合中央金庫.
M3	M2 と同じ 全預金取扱機関
広義流動性	M3 + 金銭の信託 + 投資信託 + 金融債 + 銀行発行普通社債 + 金融機関発行 CP + 国債 + 外債

要求払預金: 当座, 普通, 貯蓄等, すぐに引出し可能な預貯金.

準通貨: 定期預金, 据置貯金, 定期積金, 外貨預金.

新定義の M2 が旧定義の M2+CD に対応.

データは日本銀行 HP: <http://www.boj.or.jp/theme/research/stat/money/ms/index.htm> よりダウンロード可能.

## 6 貨幣数量説

- 貨幣量が経済に与える影響を分析する場合, 貨幣需要がどのように決定されるかを考えなければならぬ. 貨幣数量説は貨幣に対する \_\_\_\_\_ を説明する \_\_\_\_\_ の理論.
- 仮定 1: 貨幣は財やサービスの購入に用いる \_\_\_\_\_ として需要される.  
( \_\_\_\_\_ のみについて考える.)
- 仮定 2: 経済全体で一定期間内に取引された財の総量を  $T$  とおく.  
 $\implies T =$  \_\_\_\_\_
- 仮定 3: それらの平均価格 or 一般物価水準を  $P$  とおく.
- 一定期間における取引総額は? \_\_\_\_\_ or \_\_\_\_\_
- 仮定 4: 仮定 1 より財の取引には必ず貨幣が使われる. この貨幣の数量 (= 存在量) を  $M$  とする.
- 仮定 5:  $M$  が一定期間に人手に渡った回数 (= 流通速度 velocity) を  $V$  とする.

- 一定期間に取引に使われた貨幣の総額は? \_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

↔ \_\_\_\_\_ フィッシャーの貨幣数量方程式

- 古典派の長期分析では  $Y = \bar{Y}$  で一定。貨幣の流通速度  $V$  は社会の支払い制度や慣習に依存しており、変化しにくいので一定と見なせる。

⇒ \_\_\_\_\_

名目貨幣供給量  $M$  を操作しても、物価水準  $P$  が比例的に動くのみで、実物経済  $Y$  に影響を与えない。

↓

貨幣の中立性

↓

古典派の二分法: 貨幣市場を捨象して実物経済のみで分析を行う。実物経済と名目経済を分けて議論する。

## 7 長期分析のまとめ

- (1) 価格が伸縮的に調整されるため労働力は完全に雇用されると仮定した。  
⇒ ケインズモデルで失業を扱う。
- (2) 取引動機のみを考えた世界では貨幣量は実物経済に影響を与えなかった (金融政策は無効)。  
⇒ ケインズモデルで金融政策が意味を持つ世界を描写する。
- (3) 他国との貿易がないことを仮定した。  
⇒ この後、古典派の開放経済モデルを学ぶ。
- (4) 資本ストック、労働量、生産技術は一定であると仮定した。  
⇒ この講義では扱わないが、テキスト第 II 巻の成長理論でこの仮定を緩めて、経済成長をモデル化する。公務員試験では成長理論も必須。

## 練習問題

- (1) 利子率に関する記述として最も適切なものを 1 つ選びなさい。
- (a) 実質利子率は政府による金融政策の政策目標の一つである。
  - (b) インフレの時は名目利子率の方が物価上昇率よりも大きい。
  - (c) インフレの時は名目利子率の方が実質利子率よりも大きい。
  - (d) 名目利子率と実質利子率が等しくなることはない。
  - (e) 実質利子率は、名目利子率を一般物価水準で割ったものである。
- (2) 古典派の二分法が成立する理由、すなわち、モデルが実物経済のみで描写され、貨幣を捨象している理由として不適切なものを 1 つ選びなさい。
- (a) 価格が伸縮的であると仮定しているから。
  - (b) ワルラスの法則が成立するから。
  - (c) 要素市場が長期的には均衡していると仮定しているから。
  - (d) 貨幣保有の動機として取引動機しか考えていないから。
- (3) 貨幣（新指標の M2）に含まれないものを全て選びなさい。
- (a) 株式
  - (b) 社債
  - (c) 譲渡性預金
  - (d) 当座預金
  - (e) クレジットカード

## 練習問題 解答・解説

- (1) 利子率に関する記述として最も適切なものを 1 つ選びなさい。
- (a) 実質利子率は政府による金融政策の政策目標の一つである。  
(誤: ゼロ金利政策などの金利目標は名目利子率。また金融政策を行うのは、政府ではなく中央銀行。)
  - (b) インフレの時は名目利子率の方が物価上昇率よりも大きい。  
(誤: 2 つの率の大小関係には何ら関係はない。)
  - (c) (正解) インフレの時は名目利子率の方が実質利子率よりも大きい。
  - (d) 名目利子率と実質利子率が等しくなることはない。  
(誤: 物価上昇率がゼロなら等しくなる。)
  - (e) 実質利子率は、名目利子率を一般物価水準で割ったものである。  
(誤: 名目利子率 = 実質利子率 + 物価上昇率)
- (2) 古典派の二分法が成立する理由、すなわち、モデルが実物経済のみで描写され、貨幣を捨象している理由として不適切なものを 1 つ選びなさい。
- (a) 価格が伸縮的であると仮定しているから。  
(正しい記述)
  - (b) ワルラスの法則が成立するから。  
(誤 (正解): ワルラスの法則は市場均衡条件を明示的に考慮しなくても、背後でうまく均衡するという法則。)
  - (c) 要素市場が長期的には均衡していると仮定しているから。  
(正しい記述。  $Y = \bar{Y}$  を仮定するということは  $L = \bar{L}$  を仮定している。)
  - (d) 貨幣保有の動機として取引動機しか考えていないから。  
(正しい記述)
- (3) 貨幣 (新指標の M2) に含まれないものを全て選びなさい。
- (a) 株式
  - (b) 社債
  - (c) 譲渡性預金  
(含まれる。)
  - (d) 当座預金  
(含まれる。)
  - (e) クレジットカード